

白神トピックス

旬の「白神山うど」を味わってもらう

山うど部会

山うど部会（桜田和浩部会長）は3月9日、「白神山うど」の販売促進キャンペーンを秋田市内のスーパー3店舗で行いました。キャンペーンには部会員やJA職員が参加し、店頭にて「白神山うどスティック」の試食会を行い、旬の味覚のおいしい食べ方などをPRしました。

当管内の山うどは県内随一の産地として、県内の量販店をはじめ関東、札幌、大阪など各市場に出荷されており、生産者で構成される山うど部会も、年に数回、県内外のスーパーなどで販促活動に取り組み、消費拡大を図っています。販売額1億47万円の達成を目指し、白神山うどの出荷は4月中旬まで続きます。



旬の山うどを味わってもらいました



受賞した佐藤組組合長（左）と荒木孝広さん（右）

ランクアップ運動と共励会で各賞を受賞

JAあきた白神
種子粉生産組合

秋田県うまい米づくり運動本部と秋田県産米改良協会は3月28日、平成30年度第二次あきた売れる米づくりランクアップ運動並びに第27回秋田県優良水稻種子生産共励会を開き、ランクアップ運動で当JAが優秀賞、水稻種子生産共励会では荒木孝広さん（能代市朴瀬）が奨励賞を受賞しました。

ランクアップ運動は、売れる米づくり対策、販売に大きな影響を与える品質・食味の向上に重点をおいて「種子更新率100%」、「整粒歩合80%以上」等为目标に掲げており、水稻種子生産共励会は、圃場確認・生産等基準検査等を行い、優良種子の生産技術向上を目的としています。

廃プラスチックを回収し適正処理へ

営農企画課

ビニールや肥料袋などの農業用廃プラスチックを回収し、JAが代行処理申請を行う取組みが3月30日、JAの各営農センターで行われました。

この廃プラ回収は、環境保全と不法投棄を防ぎ、農家が廃プラ類を適正処理するための手助けとして、年3回行う計画となっています。当日は、JA職員らが農家からの処理委託に対応し、営農センターには廃プラスチックを積んだトラックが次々と訪れました。職員らは、古くなった苗箱やビニール、肥料・農薬の空袋などを計量機に運びました。この日は、全営農センターで47人の利用があり、約6.0tが処理委託されました。



廃プラを計量機に重ねるJA職員



イージーウォークを寄贈するJRC委員

常盤中学校から福祉用具が寄贈

いなほの里

3月6日に能代市立常盤中学校から、いなほの里へ座ったままでも歩く運動ができる「イージーウォーク」1台が寄贈されました。

同校では毎年、JRC（青少年赤十字）委員会が中心となり、常盤小学校生徒と合同でアルミ缶やスチール缶、ペットボトルのキャップを回収し、その収益金を使って市内の福祉施設へ備品を寄贈しています。いなほの里でも毎年福祉用具をいただいております。利用者の機能回復訓練などに活用されています。JRC委員長の佐藤愛南さんは「1年を通して全校生徒が協力して回収を行いました。イージーウォークを健康維持や体力維持にたくさん使ってもらいたいです」と話してくれました。